

原発工事

高浜4町議の会社受注

福島事故後 170件、7億7000万円

再稼働の手続きが進む関西電力高浜原発3、4号機が立地する高浜町で、町議四人の会社が、福島第一原発事故後に関電などが発注する工事を受注していたことが分かった。四社合計で

二〇一一年四月から一四年九月までの間に、少なくとも百七十件、七億七千万円分を受注していた。高浜町議会は二十日の全員協議会で再稼働に同意している。

県の工事経歴書によると、栗野明雄町議(公)が社長を務める「栗野鉄工所」は、三年間に高浜原発の配管移設や高浜3、4号機の空気圧縮機の定期修繕など三十の工事を関電本体から

受注。関電プラントなどの関連会社や下請け企業からも五十一件受注していた。栗野氏は「お話しすることはない」と述べた。

磯部武史副議長(公)が二年四月まで役員を務め、現在は社員として勤務する電気工事会社「若狭技術サービス」は一一一三年度に関電の子会社「関電パワートテック」が発注した放射線測定機の定期修繕工事など十七件、九千七百七十三万円分を受注。磯部氏は「自分の会社のために再稼働に賛成したことはまったくなく、町民の声を聞いて判断した」と話した。

井ノ元康夫町議(公)が勤める建設会社「石橋工業」も高浜3号機の蒸気圧力弁の点検架台修繕工事など五十二件、三億二千五百六十九万円分を受注していた。

井ノ元氏も一〇年八月ごろに役員を退任。今は社員のため「支援者も理解してくれている」と述べた。横田則孝町議(公)が社長を務める電気工事会社「ヨコタ」は、高浜原発の原子

炉保護制御装置の点検工事など、関電の下請け会社から二十件、三千二十一万円分を受注していた。横田氏は「申し上げることはない」と話した。関電の担当者は「個別の契約に対する内容には回答を差し控える」と話している。

高浜町議会は福島事故後の一二年三月から議員や親族の関係する企業が原発関連の工事を多額受注するのは町民の不信感を招くとして、一定の制限を設ける議員政治倫理条例の見直しを議論。しかし、一三年十月に「時期尚早」として見送った経緯がある。